

京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書

平成22年4月14日

財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長  
松 本 紘

事業区分	平成21年度・大学全体計画事業助成		
事業名	京都大学春秋講義の開催		
成果の概要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有( )		
会計報告	事業に要した経費総額	2,248,600円	
	うち当財団からの助成額	1,600,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	運営費交付金
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	印刷製本費	409,500	409,500
	通信運搬費	154,644	154,644
	公告・宣伝費	419,758	419,758
	旅費・謝金	374,160	116,160
	施設使用料	390,600	0
消耗品等	499,938	499,938	
合 計	2,248,600	1,600,000	

## 成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

### （総評）

「京都大学春秋講義（春季・秋季）」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資産について、広く学内外の人々との共有を図ることを目的として昭和63年度より春季及び秋季の2回、京都大学の教員による連続講義（月曜講義、水曜講義）の形態で開催しているものである。

春季、秋季いずれも「月曜講義」は共通のメインテーマを設け、各講師の企画・構成により行い、「水曜講義」は共通テーマを設けず、各講師が時宜を得たテーマにより行っている。

春季の「月曜講義」では、「死刑を考える」を共通のメインテーマに「アジアの死刑 - その歴史と思想」「刑罰の目的と死刑の意義 - なぜ人が人を裁けるのか」及び「刑事手続きの中の死刑 - とくに裁判員制度との関係で」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「iPS細胞の臨床への応用」「消えた反物質 - 小林・益川理論と反粒子実験」及び「光速をめぐって - 歴史的意義と先端技術への応用」について3名の講師が講義を行った。

また、秋季の「月曜講義」では、「ガリレオ・ガリレイと現代 - 世界天文年にちなんで」を共通のメインテーマに、「ガリレオの見た黒点と太陽はどこまで解明されたか?」「ガリレオの天文観測 - 望遠鏡による新しい宇宙の発見」及び「天体望遠鏡400年の歴史」について3名の講師が講義を行い、「水曜講義」では、「将来を支えるエネルギー：太陽、そして水素」「『分数ができない大学生』から10年 - 何があったか、何が変わったか」及び「日本の宇宙基本計画と宇宙開発利用」について3名の講師が講義を行った。各講義終了後には質疑応答の時間を設けており、活発な質問が行われた。

春季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ1,340名、秋季講義には「月曜講義」3回、「水曜講義」3回の6回で延べ1,044名、合計2,384名の参加者があり、1回当たりの開催について198名の参加者があった。

なお、秋季の「月曜講義」については、東京オフィスでの同時中継を行い延べ61名の参加があった。

参加者の意見聴取については、毎回講義終了後にアンケートを実施し、講義テーマや講師の選定、講演会場の設定等今後の企画に生かしている。

また、広報についても、京都市営地下鉄駅構内でのチラシ配架や、講義テーマ、開催場所によってポスター等の送付先を工夫するなど広く市民に周知するよう努めている。

### （今後の計画）

平成22年度の計画についても「教育・研究活動を通じた社会との連携協力事業」を更に進める効果が期待できるため、今後とも貴財団からの助成をお願いしたい。